令和３年度（2021 年度）第１回宗谷圏域障がい者が暮らしやすい地域づくり委員会議事録

１　日　時　令和３年（2021 年）７月３０日（金）１３：３０～１５：３０
２　場　所　宗谷合同庁舎２階　講堂
３　出席者　別添「出席者名簿」のとおり
４　議　題　別添「次第」のとおり
５　資　料　別添のとおり
６　挨拶及び新任委員紹介
（１）挨拶
影山社会福祉課長より開会の挨拶を行った。
（２）新任委員紹介
令和３年度に就任された２名の委員の紹介及び自己紹介を行った。
池田委員：稚内ひまわり基金法律事務所の弁護士をしている。
今年の４月に、稚内ひまわり基金法律事務所の４代目所長として就任し、稚内市に来て３か月が経とうとしている。
弁護士として、後見事件や債務整理や刑事事件で障害のある方と接することがあり、社会の中で生きづらさを感じて生活していると感じるところがある。
債務整理で、１回破産したけれども障がいの関係で２回目の破産になってしまう方も。
そういった方が生きづらさを感じないような環境づくり、生活づくりができていければと思っている。
弁護士という観点から話をするが、皆さんからも色々な観点から話を聞き、弁護士業務にも活かしたいと思っている。
新田委員：令和３年４月１日付け人事異動により稚内市生活福祉部社会福祉課長を務めている。
平成２３年から平成３０年４月まで、約７年間、社会福祉課で障害福祉の仕事を担当していた。
宗谷圏域が、障がいのある人にとって暮らしやすい地域となるよう連携・協力していきたい。
７　議　事
（１）報告事項
令和２年度の活動報告について、資料１のとおり事務局より説明を行った。
（２）協議事項
地域課題解決に向けた取り組み実施について、資料２のとおり説明を行った。
（３）報告事項及び協議事項について各委員からの意見
〈大谷推進員〉
今後に向けてのご質問やご意見をいただきたい。特に、今のコロナの収束が見えない中でもできることをしていきたいと思っているので、今後に向けてのご意見をいただければと思う。
地域づくり委員会のホームページは有効に活用できるので、ここから発信できるものを第一に充実させていきたいと思っている。
令和３年度は、制約というか難しいところがあるが、できることをやっていきたいと思うので、皆様のご意見をいただきたいと思う。
説明をまとめると、イベント自体は令和３年度は難しいが、令和４年度に向けての準備は充分できるのではないかと思う。

イベントとしての取り組みをする前に、準備段階でどのようなことをしていったらいいか、具体的なところを皆さんと詰めていけたらいいと思う。
〈黒川コーディネーター〉
取り組みについては、令和３年度中の実施は正直難しいところがあるのは、ご理解いただきたいと思う。
実施に向けての調査もさせていただいた結果、参加いただきたい事業所に、目的がなかなか伝わりきれなかったのかなという感じがする。
皆さんから、こういう工夫をしたら相手（事業所）に前向きに参加を検討いただけるのではないだろうかとか、対象についても広げていったらいいんじゃないだろうとか、アイデアがあれば、よりよいものになるのではないかと思う。
〈大谷推進員〉
委員会も期間が空いての開催となってしまっているので、振り返りながらだが、この場は、皆さまのそれぞれの立場で日頃感じていることを、障がいがある方についての差別や虐待の解決に向けてとか、障がい者の地域生活を支えるサービスがより豊かになって、生きづらさのない暮らしができるようにということを目的としているので、そのあたりでもこういうことがあったらいいというご意見なり、ちょっとした気づきなりをお伝えいただければと思う。
〈加藤委員〉
３つ思うことがある。
１ つ目は地域課題に向けての取り組みについてということだが、コロナは地球課題であり予測できない中なので、企画側もそれを受ける側も大変な苦労があると思う。
どんな風にどんな目的で流していくのか、一年規模、数年規模、十年規模で考えていくのは難しいと思うが、なにもしないのではなく準備することは素晴らしいと思う。
２つ目は学校現場の立場として聞いていて感じたこと。
養護学校で手をつなぐ子らの作品展を毎年行っていた。今はコロナで行っていないが。
授産製品の販売及び受注業務などのＰＲの取り組みについて、それに似ているものを感じた。
手をつなぐ子らの作品展を開催していく時に、子どもと向き合う教師も、同じ目的で仕事をしている人とのつながりという意味でも意義がある取り組みだと感じていたことを思い出した。
障がいのある人にとっても、イベントがあるということは、目的と機会、自分のやっていることに価値を見出す機会になる。
もう一つ思ったことは、カリキュラムについて。
手をつなぐ子らの作品展に向けた作品作りが、学校ではどの目的でどのカリキュラムに組み込まれているのか。障がいがあるとかないとか、難しいところではあるが、わざわざ別カリキュラムにして、それが壁になってしまうのではないかという発想もある。
健常である子と障がいのある子のカリキュラムに差をつけることの意義は何かと話し合う機会も多かったので、目的は大切だと思う。
３つ目は、ＰＲについて
手をつなぐ子らの作品展ではネットでのＰＲは行わなかったが、学校独自のネットワークに公表した。
また、アナログになることによって見る人もいる。インターネットを使う人が増えているが、初めからインターネットではなくて、例えば学校や事業所では新聞にＱＲコードがあってそこから見ることができるといった方法がある。
最初から画面の人には、ハッシュタグなどを利用する手もある。そのハッシュタグにひ

っかかる言葉を考えて、興味のありそうな人へ発信する手立てもあると思う。
〈大谷推進員〉
　いろいろな方法があると思うので、いろいろな人が対応できるような方法を考えていかなければならないと思う。
〈小倉委員〉
　コロナ禍でほとんどのイベントが行われていない状況なので、もしイベント開催となると、かなりの人数が集まることになると思うので、当事者の家族としては、今の状況では怖いなと感じた。
　もし、コロナ禍が落ち着いて開催できる時期になったら、授産製品販売や展示の他に、子どもたちも楽しめるような、ヨーヨーや縁日みたいなものがあれば、子連れでも行きやすいし、宣伝もしやすいと思う。
〈大谷推進員〉
　令和３年度のイベント開催は無理だが、収束以降に企画する際には、そのような意見も取り入れたい。
　楽しくないと、興味がないと誰もこないので、色々なアイデアを溜めていてほしい。
〈鈴木委員〉
　人が集まってのイベントは厳しいところがある。
　私が関わっている高齢者のイベントも、ことごとく中止になってしまっていて本当に厳しいところがある。
　コロナ禍でやれることは限られていると思うが、加藤委員が言われていたＰＲの部分で、インターネットの話があったが、私は疎いためアナログは必要だと思う。
　小倉委員の言われていたとおり、コロナが落ち着いてきた後は子どもたちの関わりも増え、町内会など地域の方と障がい者の方が一緒に遊べるイベントができたらよいと思う。
〈大谷推進員〉
　おさまると企画ができたらよいと思う。そのためにもアイデアを溜め込んで考えていただけたら良いと思う。その他に今できることがあれば聞きたい。
〈内田委員〉
　取り組みは、さらに良くしていけるところがあったらいいと思う。
　コロナについては、枝幸町の人は敏感で、浜頓別町、中頓別町もコロナ感染者が出たらすぐ町内放送で流れる。
　道の方は感染者の情報を一週間後に出すので皆が気をもんでいるところに、少し先の見通しが立つような情報発信をしてくれるのが、一つの前進ではないかと思う。
　ワクチン接種のことも含め、もう少しの我慢だと思いつつもデルタ株の広がりもあってまだまだ予断は許さないと思う。
　ひとところに集まることの厳しさを感じる今、イベントをやるのであれば、やはりＷｅｂ上がよいと思う。
　これだけ宗谷で発信できるＳＮＳがあり、地域づくり委員会のホームページもあり、クロスオーバーさせてもいいと思う。やるのであれば、ホームページを持っているところも持っていないところもあるかもしれないが、Ｗｅｂ上のバザー形式も一つの手ではないかと考える。
　他の事業所の販売ページや製品の紹介、事業所の紹介にジャンプできる、集約型のホームページでのＰＲをやってみてもよいと思う。
　また、テレワークを推進されている中で、ものづくりに関わっている人がシンポジウムをしたり、ものを出すだけでなく、作り手の人がどのように関わっているのか伝えていくとよいのではないかと思う。

２点目だが、前職で障がい者のアート活動を支援していた。
去年の６月から、自由創作という自由に絵画創作をしたりものを作る活動をしていて、アート活動を宗谷の地域に広げていきたいという話を、千葉委員の事業所やサロベツマイハートや木馬館に協力依頼をしている。
子どもたちが作る作品、障がいのある人が作るアート作品を、授産製品とは違った魅力として発信していってもよいのではと思う。花が添えられる作品だと考える。
現物で見るのが一番だが、今の状況では難しいので、作品発表の場があったらいいのではないかと思う。
〈大谷推進員〉
内田委員から出たように、今の時代に合う、こういう状況だからできることを考えたい。
今後、各事業所に意向やホームページがあるか確認をとりながら、取り組んでいきたい。
技術的にどのようにするかは、わかる人の力を借りたい。
〈千葉委員〉
自分の周りの障がい児、障がい者が、イベント地域の祭りとかあると、本当に楽しそうに過ごしている様子とか、興味関心っていうのを感じてきた。
自分のところの事業所は、コロナ禍と同時に始まった事業所で、地域で生活したり、一緒に暮らしている姿を見ると、今、いろいろワクチンとかも進んでいるけれど、表情とか笑顔とかは、２年前、コロナの前より減ってると感じてきた。
この前知り合いの福祉事業所を訪問した時も、そこは３０名くらいいる事業所で、３年前はすごくにぎやかで活気があったけど、全員がもちろんマスクをして、わいわい、ガヤガヤっていう雰囲気ではなくて、できるだけ声を出さないようにとか、接触はしないようにとか、自分たちと同じように旅行に行かないとか、外出はしないというようなストレスを、相当受けてると感じた。
コロナが終わったら、２年前の状態、様子に戻すのが第一関門かなと思っている。
本年度はコロナの影響でイベントは無理というお話は本当にそうだなと思う。
コロナがどういう形か分からないけどおさまって、イベントをするのでも、福祉事業所の障がいを抱えた人っていうのは、元の生活に戻るのに相当な時間を要するのではと感じている。
なので、例えば稚内の北門神社のお祭りが集まったからとか、というような感じでいくと思うんですけど、福祉事業所や障がいを抱えた人達の中には、それについていくのも苦労する部分があると感じているので、ご配慮いただけたらと思う。
〈大谷推進員〉
私の方の意見、お願いだけど、例えば各事業所にホームページありますか、ありませんかっていうほかに、各事業所に負担の少ない内容で効果的な質問を考えていただいて、情報として、こんなのどうかと事務局にいただけたらありがたいと感じた。
こういうのだと事業所も答えやすいよとか、こういうことも想定させるよとか。
〈池田委員〉
コロナになる前は弁護士会の各イベントは大きな会場に集まって、研修とか委員会とかも会場に集まって、所狭しと講義を受けるって形だったけれども、コロナになってＷｅｂ開催だとか、会場に来ても広い会場に１０人までとか、制約がある。
イベントを開催するにあたって、今コロナが収束するかわからない状況になっているので、事業所としても参加しやすい様な形の取り組み提案ができたらいいのかなと聞いていて感じた。
事業所の参加できない理由としてもコロナの関係が多いので、事業所の方が人の集まるところに不安を感じているのであれば、パネル展みたいなもので参加してもらえないだろ

うかとか、あるいはＰＲ動画を作ってそれを会場で流してもらうとか、そういった形の参加方法でもお願いできないでしょうかという形で、事業所の方に提案してもいいのかと感じた。

弁護士会の研修も、結構動画で流すことも多くて、動画の力って大きいかなと思っている。一旦ＰＲ動画を撮っていただければ、ＳＮＳ上で共有したりとか、いろいろなところで使っていただけるのかなと思っているので、それらの媒体が使えるのであれば、どんどん利用するべきなのかなと思う。

弁護士会あるいは弁護士の団体とかも、イベントの YouTube のライブ配信の動画を弁護士会のホームページに保存したりとか、弁護士個人の Twitter とかで動画を拡散している部分があるので、そういった形でイベントのＰＲとかいろいろできればいいのかなと今聞いていて感じた。

〈新田委員〉

この資料の中で、イベントの開催会場が稚内市総合文化センターを想定しているところだが、１１月から大規模改修、さらに、８月からは、新型コロナウイルスワクチンの集団接種会場になるということもあり、今年度中の開催が可能なのか？と思って拝見していた。

説明の中で本年度の開催は見送っていいのではと言う話があったので、了解した。

ただ、先ほど新型コロナウイルスにおける各種イベントの関係のお話が出ており、行政のイベントなども令和２年度から今年にかけて、軒並み中止という状況が続いている。

各種会議についてもＷｅｂ会議が主になってきているし、今日の会議も一枚の机に一人席で、過去はこれくらいの机だったら２人ないし３人くらいでやっていたと思うが、今の時代はこのような会議開催のスタイルになっているのは、皆さんもうご存じかと思う。

先ほどご意見が出ていたとおり、機械的なことは私も詳しくないが、ＳＮＳやネット、Ｗｅｂ等、後はパネル展でもいいし、今まで集まってやっていたイベント的なものを、コロナが終わったら開催しようというのではなくて、ちょっと頭を切り替えて、皆さんで知恵を出し合って、感染対策を十分講じたうえで開催することを検討してはどうかなと感じた。

それと、もし可能であればせっかくの機会なので、１１全ての事業所が参加できる形で開催する工夫も必要と感じた。方法はいろいろあると思う。大きい会場に１１事業所集まるパターンもあれば、あるいは先ほどおっしゃっていた様に、動画が流れて事業所が紹介されるとか、いろいろな方法があると思う。

〈大谷推進員〉

皆さんのご意見、お話をおうかがいすると、できることをいろんな会場を使ってやりましょうという前向きな意見が伝わってきたような気がする。

で、全部つながってはいると思うけど、３つの課題、就労支援について、相談支援体制の充実強化について、障がい児者と地域住民の相互理解については、やはり知ることで理解が深まってということでつながってはいるが、Ｗｅｂ上なりいろんな発信の仕方によって積極的に伝えていきましょうってことでまとまるような気はする。

そのほかに、相談支援体制の充実強化については、こういうことも必要だとか、ご意見とか気づきがありましたら、いただけたらと思う。

その他に今までの地域課題に取り組んできた中で、より効果的な方法が何かあったら、ご意見をいただきたいと思う。

〈内田委員〉

いつもイベントをやるときは大体稚内市だと思う。枝幸町からは距離があって、イベントを見に行くのはちょっと難しいと思う。

僕が前にいた上川の中部圏域、愛別、当麻、上川、比布の４町には基幹相談支援センタ

ーがあって、啓発のため職員がやっていることなんだけど、そこは、各町等しくキャラバンで回るという取り組みをしていた。
　なので、全部の町村を回るわけにはいかないと思うけど、ＰＲ活動ないしイベントがあるということであれば、できれば地域ごとに少し分けてもらってもいいのかなと思う。
　いわゆる南宗谷地域で行う場合は、特に浜頓別町、中頓別町、あともしかしたら幌延町の方も来てくれるかもしれないので、２カ所くらいでやってもらえるとありがたいなと思う。
〈大谷推進員〉
　地域的に本当に広いので、いろんな場所でできたらいいなと思う。
　先ほどの、図書館での障がい者ブックフェアは本当に市町村全部でできたらいいなというのがあるので、それも事務局で機会を見つけて進めていきたいので、そのときには委員さんにもお願いすることもあると思う。
〈大橋主査〉
　もしそういうことになった時には、現地の委員さんにぜひ、ご協力をお願いしたい。
〈内田委員〉
　町もおそらく協力すると思う。
　枝幸町は　場所借りて何か展示したりするには、コミュニケーションセンターとかそういう大きい場所があるので。
〈大橋主査〉
　そういうことになった時には、ぜひよろしくお願いしたい。
〈大谷推進員〉
　いろいろなところがつながって、理解が進んだりとか、隣の市町村、管内につながっていくというのはとても理想的なことなので、行政だけ地域だけというだけでなくて、お互いに協力してつながっていけるような取り組みができたらいいと思う。
　この委員会は、いろいろな立場の、普段積極的に活動されている方ばかりなので、会議には年３回しか集まる機会がないけど、地域づくり委員会であんなこと言っていたなと、普段の仕事の中で、生かしてもらえたらいいなと思った。
〈千葉委員〉
　ちょっと話題とは離れてしまうけど、福祉事業者として気になることがある。
　厚労省とかの数値は見てないけど、うつとか、精神疾患に関わる様な状況で、コロナ禍のストレスで、全国的に自殺をする方が増えている。
　そういった中で、福祉従事者とか理解ある皆さんが、苦しんでたり、不安だったり、いつもと様子が違ったりしている人たちを、サポート、相談とか、各市町村の相談支援センターとか、心の相談とか、そういうのにつなぐ運動をしてくれたらいいんじゃないかなと思う。
〈黒川コーディネーター〉
　委員のお話にもあったけれど、ただでさえ生きづらいのに、コロナ禍で窮屈な思いをされていて、さらに生きにくくなっているという状況があるのかなと思う。
　そういう、なかなか出ない声に、いかに耳を傾けるかっていうのが私たち支援者だったり、関係者の方々に求められているところなのかなというのは感じている。
　地域課題の部分の一つの就労支援の部分でもまた、コロナ禍で業績が悪化したことによって解雇されてしまった障がい者、その人自身には問題がなく令和元年には優良従業員に表彰されるような方であっても、会社側の業績の問題で解雇されていく、そういった部分が事実ある。
　コロナがおさまってくれるのを一番願うところではあるが、そういった方々が埋もれて

しまわないような支援だったり、事業所の分も今までよりも就労の支援とか、そういう部分を何か気にかける、その方に寄り添ったり、社会参加、そういった部分の発想をより強くしていかなければならないのではないかと感じている。

〈加藤委員〉

コロナの収束を待って見越してのスパンの準備等もちろん大事だけれども、内田委員の言うように、できることはやる。できることはやるってことを思った。

で、それを思う根拠が、今日ここに来るにあたって聞いてみた、いくつかの事業所の先輩や、学校の仲間たちの話にある。

今の中学生、高校生、大学生は、コミュニケーションが元々苦手な子、コミュニケーションの機会を失った子たちが二極化していて、一方は引きこもっていて伝えたいことが伝えられない、もう一方は楽になった、それが良いか悪いかは分からないが。

元々そんなにコミュニケーションしたくなかった子が、学校休みになったり、リモートになったり、就活さえも最終面接以外はリモートになったりとかしていて、自分はそのコミュニケーションが上手くいかない、しっくりいかなくて出れなかったりする子たちがいるなと感じている。

学校現場でも、自立支援学級だけではなく普通学級の中でも、不登校とかいじめとかも多く、休みも多いので発見も遅れてしまったりとかあるので、戻りますと、できることはやると言うことでつながっていくのでは。

〈大谷推進員〉

毎回言っていますが、こういう集まる機会は少ないので、随時事務局に、皆さんのご意見やアドバイス等を、例えば先ほどの、事業所に照会する内容とかも、これはどうなのか、これもいいと思うということをいただくと本当にありがたいので、再度お願いしたいと思う。

期限とかは決めてはいないですが、次回を見据えてプロの皆さんのお話を聞けて、再度、今年度の計画を具体的にしていけたらなあと思っている。

〈影山社会福祉課長〉

いろいろとご意見いただいて、やはりコロナ禍ということで、実際に人を集めたイベントは非常に厳しいものがある。

内田委員から提案いただいたＷｅｂ上での開催ですとか、あるいは地域づくり委員会のホームページを使っての発信ということで、Ｗｅｂ上でのバザール、いわゆるポータルサイトみたいな感じで、例えば地域づくり委員会のホームページに、管内の事業者さんの、大半がホームページなりあると思いますので、そういったもののリンクをつくるような感じで、よくあるような綺麗なものができるかどうかあれなんですけど、ちょっと工夫して検討して、格好良くないものから始まってしまうかもしれないですけど、その辺は早い段階でできるかなと思って聞いていたところですので、検討させていただきたい。

その前段で、各事業者さんに意向を確認したりというのもありますので、先ほど大谷推進員からもありましたが、こういったことを聞いた方がいいんじゃないか、こういった内容といったものがあれば、どんどん事務局へご意見いただければと思っておりますので、よろしくお願いしたいと思います。

〈大谷推進員〉

事務局も本当に忙しい中でやっていただいているが、心強い言葉をいただいたので、安心して皆さんもご意見いただきたいと思う。

（閉会）